

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 10 月 10 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370798

研究課題名(和文)近代日本による沖縄と台湾の「旧慣」調査と統治政策の形成 田代安定資料を中心に

研究課題名(英文)TASHIRO Yasusada's "Old Custom" Surveys in Okinawa and Taiwan: Influences on the Formation of Japanese Colonial Policy

研究代表者

大浜 郁子(OHAMA, Ikuko)

琉球大学・法文学部・准教授

研究者番号：60459964

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、沖縄と台湾において「旧慣」調査を行った田代安定が遺した一次史料に基づいて、両地域の「旧慣」調査の類似点と相違点を考察して特質を明らかにし、「旧慣」調査がいかに沖縄と台湾の統治政策の形成に繋がっていたのかを解明することを目的としている。本研究では、台湾大学所蔵「田代文庫」所収「沖縄関係資料」の全文翻刻を進展させ、特に、国内外に分散所蔵される八重山開拓「植民」論に関する田代の建議案を比較して各種建議書の最終版を確定した。本研究の意義は、沖縄と台湾の田代の「旧慣」調査を比較研究することによって、沖縄の「旧慣」調査が日本の植民地統治政策の形成の原型となったという仮説的結論を得たことにある。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research, through the primary historical source of TASHIRO Yasusada (1857-1928), was to examine the similarities and differences between the modern Japan "Old Custom" surveys conducted in Okinawa and Taiwan, and reveal that these surveys were actually connected to the formation of Japan's colonial policy. The contributions of this research include: the creation of a complete reprint of the "documents related to Okinawa" in Taiwan University's "Tashiro Library," and of particular importance, the determination of new historical materials in and outside of Japan allowing for a plurality of draft proposals.

The significance of this research is in the results of my hypothesis, which reveal that TASHIRO's "Old Custom" surveys in Okinawa were a model for the formation of Japanese colonial policy. This result was reached through a comparative study of TASHIRO's "Old Custom" surveys in Okinawa and Taiwan.

研究分野：日本近現代史

 キーワード：田代安定 田代安定関係資料(=「田代文庫」) 「旧慣」調査 沖縄関係資料 近代台湾 近代沖縄  
 近代日本 翻刻

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 田代安定は、1880年代から1920年代にかけて、沖縄と台湾の双方で「旧慣」調査を行った人物である。田代が遺した膨大な一次史料は、現在、台湾大学図書館特蔵室に「田代文庫」として所蔵されており、台湾関係資料などの一部がデジタル資料として同館 HP 上で公開されている。

(2) 草書体で書かれた田代の史料は、日本人研究者でも解読は非常に困難である。特に、「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」は、沖縄に固有の地名や人名、王府時代の役職名や各地の独特の風習に基づく記録が多く、沖縄研究者でなければ、文字は読めても内容を理解することは困難である。そのような理由から、「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」は、ほとんど活用されていない状況であったが、沖縄近現代史を専門とする研究代表者が約12年前より細々ながら、整理と解読の作業を続けてきた。

(3) 本研究は、「田代文庫」をはじめとする田代の一次史料を用いて、近代日本が行った沖縄と台湾の「旧慣」調査が、両者に対する統治政策の形成にどのような影響を及ぼしたのかを、両者の比較を通して明らかにすることを最終的な目的としている。沖縄と台湾に対する日本の統治政策を総体的にとらえるためには、統治する側が統治以前からの「旧慣」をいかに取舍選択して実際の政策に取り込んだのかを明らかにすることが重要である。

本研究では、両地域で行われた田代による「旧慣」調査に着目し、その類似点と相違点を考察して、「旧慣」調査の特質を明らかにし、さらに「旧慣」調査がいかに沖縄と台湾の統治政策の形成につながったのかを比較する。特に、日本が初めて領有した「外地植民地」台湾の統治政策の策定と実行にあたって、それに先行する沖縄の統治政策がモデルとされたのか、否かという問いを設定し、「旧慣」調査を軸に、この問題を考察することによって、一定の答えを導き出したいと考えている。なぜならば、「内国(国内)植民地」と称されてきた沖縄における「旧慣」調査の実態を考察することにより、日本による(「内国(国内)」・外地を含む)植民地統治政策の形成の原型が明らかになると考えているからである。

(4) 上記の研究を進める中で、幸いにして、2014年度から3年間にわたり、科学研究費補助事業(若手研究(B) 課題番号23720323)の助成を受けることができ、「沖縄関係資料」の目録作成、史料の収集および翻刻などを格段に進めることができた。本研究は、これらの研究を継承するものであり、日本はもとより沖縄にも現存しない「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」の全文翻刻をさらに進展させ、田代の「旧慣」調査と日本の統治政策の形成を原型について明らかにすることを目指すものである。

### 2. 研究の目的

(1) 沖縄と台湾において「旧慣」調査を行った田代安定が遺した史資料について、国内外に分散所蔵されているものをすべて網羅した資料目録を作成し、データベースを構築することである。

(2) 台湾大学図書館特蔵室所蔵「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」を全文翻刻し、そこに含まれる沖縄・八重山諸島の開拓「植民」論に関する田代の建議案数種を比較検討することによって、各種建議案の先後関係を明らかにし、最終版を確定することである。

(3) 国内外に現存する田代関係資料に基づいて、沖縄と台湾における「旧慣」調査と日本の(「内国(国内)」・外地を含む)植民地統治政策の形成との関係を比較することである。

### 3. 研究の方法

(1) 国内外に分散所蔵される田代関係資料の収集を行い、資料目録を作成するとともに、可能な限り電子データ化し、書誌的な情報は田代関係資料の単一の目録に統合して、電子データと目録を関連づける。

国立公文書館や国史館台湾文献館に所蔵される、主に田代に関する公文書の収集と電子データ化のための調査を行う。国立国会図書館憲政資料室や青森県立図書館などに所蔵される田代に関わる個人文書の収集と電子データ化のための調査を行い、新史料の発掘につとめる。

(2) 台湾大学図書館特蔵室所蔵「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」の全文翻刻を行うため、所蔵室内でのみ閲覧が許可されているデジタル化された史料を優先的に翻刻する。デジタル資料では不鮮明な史料については、可能な限り、原史料との照合をはかる。

「田代文庫」の原史料の複写は禁じられており、虫損による判読困難などの状態が良好ではない史料も多く、史料の照合と翻刻には多くの時間を要する。しかし、研究代表者は、これまでの調査の結果から判断して、「手稿類」を優先し、デジタル資料として公開されている史料を順に筆写して、翻刻することで効率的に作業を進める。

沖縄・八重山諸島の開拓「植民」論に関する田代の建議案数種を比較検討することについては、「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」に収録される各種建議案と他の所蔵館に現存する建議案とを照合することによって、これらの先後関係を明らかにして、各種建議案の最終版を確定する。

(3) 国内外に現存する田代関係資料に基づいて、沖縄と台湾における「旧慣」調査と日本の(「内国(国内)」・外地を含む)植民地統治政策の形成との関係を比較した研究成果を、国内外の学会やシンポジウムなどで口頭発表することによって、本研究の方向性や考察の方法などに関する批評や助言を聴取

して、以降の順調な研究遂行をはかる。

本研究によって得られた新たな知見は、最終的な研究成果として、国内外で論文として公刊し、学界への貢献につとめる。

#### 4. 研究成果

(1) 国内外に分散所蔵される田代の関係資料の収集と目録作成および電子データ化を行った。事前調査によりある程度予測してはいたが、実際に、国内外において複数の新史料を発掘したことは特記すべきことである。

台湾では、国史館台湾文献館所蔵「台湾総督府公文類纂」所収の田代の関係資料を新たに発掘し、電子データ化した。

国立公文書館および国立国会図書館憲政資料室に所蔵される田代関係資料を収集し、電子データ化した。

京都大学所蔵の整理中の資料群に、田代の台湾時代と同時期の台湾の農事関係資料が含まれており、これらについては継続して調査を行う予定である。

笹森儀助の出身地の青森県立図書館所蔵の笹森儀助関係資料に、田代の関係資料が多数収録されていることを確認した。これらについては、田代と笹森の調査資料の照合を継続しており、将来的な田代の関係資料の総合目録の作成に備えている。

(2) 台湾大学図書館特蔵室所蔵「田代文庫」所収の「沖縄関係資料」の翻刻については、所蔵室内でデジタル資料として閲覧が許可されている史料を優先的に筆写した。デジタル資料の画像では、朱書きや修正などを確認することが難しい場合もあり、原史料の閲覧請求を行ったが、保存状態の不良を理由として閲覧が許可されない史料もあったため、全文翻刻には至らなかった。しかし、これらの原史料との照合ができなかった史料を除けば、比較的順調に翻刻は進んでいる。

「沖縄関係資料」の翻刻において、田代の「旧慣」調査に基づく、沖縄・八重山の統治に関する建議書には、複数の下書きが存在することを明らかにした。また、国内外に現存する田代の同名の建議書の数件については、比較検討した結果、その先後関係を明らかにすることができた。各種建議案のうち、数件については、最終版が確定した。

所蔵館が作成した仮目録のうち、本研究の今後の進展を考慮して、「沖縄関係資料」に限定せず、仮目録についてはすべての件名を筆写してあったが、それらの件名と館内閲覧が許可されているデジタル資料との照合をできる限り行った。現時点では、「田代文庫」の「沖縄関係資料」以外の資料のうち、3分の1に相当する件名についてはデジタル資料との照合を完了した。

(3) 本研究の内容を、国内外の学会やフォーラムなどで口頭発表し、最終的な成果として、論文にまとめて公刊した。

初年度には、次年度以降の順調な研究の遂行をはかるために、本研究の基本的な内容

を台湾での国際フォーラムにて、[台風による遅延のため]代読により発表した。田代の「旧慣」調査に基づき、台湾・東南地域の「原住民」統治と沖縄・八重山統治の比較研究を行い、両地域における「旧慣」調査と統治のそれぞれの類似点と相違点を指摘した内容は、論文として台湾で公刊した。

第2年度には、本研究の中間報告として、日本では日本台湾学会学術大会にて、台湾ではタロコ族抗日戦争史の国際シンポジウムにて、口頭発表を行った。前者は、田代の「旧慣」調査が台湾臨時旧慣調査会の調査よりも早い時期に実施されており、臨時旧慣調査会の調査へも影響を及ぼしていた可能性について提示した。後者は、田代が旧台東地域のタロコ族の「旧慣」調査をも行っており、田代の調査と同地域の「原住民」統治の形成との連関等について論じ、その内容は論文として台湾で公刊した。

最終年度には、本研究の最終成果報告として、台湾の国際シンポジウムにて口頭発表を行った。田代が沖縄・八重山と台湾の「原住民」居住地域で行った「旧慣」調査に基づいて、山県有朋や樺山資紀ら政府高官へ建議した統治改革の構想などは、実際の統治政策の形成にどの程度影響を及ぼしたのかについて、その一端を明らかにした。

田代の構想は、従来面積の小さい沖縄は「移殖民」には適さないと判断されていた、とみなされてきたことへの再考の可能性をもつものである。さらに、日本による沖縄への「旧慣温存」政策に関する議論を再考する前提として、田代が行った最初期の「旧慣」調査を考察することにより、「旧慣」が「温存」された理由の解明へとつながる可能性もある。

田代は、台湾の「原住民」の「旧慣」調査に基づく「原住民」居住地域への統治構想は、総督府直轄の監督官庁を現地に設置することによって、清国人や匪賊の鎮圧及び「撫番」が可能であるとみなしている。この田代の構想は、台湾において、かつての清国の「原住民」統治（「化外の地」）とは異なる統治を日本が打ち出す根拠となった可能性を含むものである。

「辺境」や「化外の地」をみなされてきた両地域に対して、田代は「旧慣」調査を行うことによって、国防の拠点としての重要性を指摘し、かつ防備のために「内地人」の「移殖民」を奨励した。このことは、分遣隊による海岸防備による統治が、沖縄における「内なる植民地」として八重山を位置づけることとなり、「原住民」居住地域への監督機関の設置による統治が、台湾における「内なる植民地」としての「原住民」居住地域を位置づけることにつながっている可能性について指摘した。

こうした本研究の成果は、八重山の「旧慣」調査に基づく田代の統治構想が日本の植民地統治政策の形成の原型の一つの事例とし

て、また、「原住民」の「旧慣」調査に基づく田代の統治構想がその連関を示す事例の一つとして、非常に重要であることを明らかにした、新しい知見といえるものである。(4) 本研究成果の地域への還元について、付言しておきたい。

田代の出身地である鹿児島において、本研究の成果を反映させる形で、田代への注目が高まりつつある。

研究代表者が田代研究を開始した当時は、田代の生誕地(加治屋町)に碑文と簡単な説明版があるのみで、田代は地元ではほとんど着目されていなかった。研究代表者は、前回の科学研究費補助事業(若手研究(B))の助成期間中、鹿児島大学に田代関係資料が多数所蔵されていることを見出し、同大の知り合いの研究者へ資料整理の必要性を訴え、同資料の目録作成につなげた。さらに、維新ふるさと館の関係者へ田代について説明をするなど、できる限りの働きかけをした。それらが功を奏し、現在では、維新ふるさと館の「幕末・維新の偉人を生んだ加治屋町」の説明版に、西郷隆盛や大久保利通らと並んで田代も加えられている。また、研究代表者が資料提供を行った、地元新聞社の元記者によって田代の伝記的紀行本が出版された。

研究代表者は、田代が沖縄・八重山諸島で行った「旧慣」調査に関して、石垣島の文化講座にて、「田代安定と八重山」と題して講演を行った(2015年9月18日)、『南嶋探験』の著者である笹森儀助は八重山でも有名だが、笹森の来訪よりも約10年前に田代が八重山で調査を行っていたことや、田代が笹森にも多大な影響を与えていたこと、田代を通して明治の八重山などを紹介し、講演の様子は地元紙にも掲載された。

このように、これまで自身の出身地や調査地においても「忘れられた人物」であった田代が、関わりのある地域で注目されつつあることは、本研究成果の地域への還元として特質に値するであろう。今後、本研究による田代の一次史料の解明が進めば、田代の足跡の詳細が明らかとなり、田代と出身地や調査地との関係などについて、研究成果の地域への還元が深化することが期待できる。

(5) 本研究から展望が開かれた研究領域について、取り上げておきたい。

本研究では、これまで笹森儀助の独自の調査であるとみなされてきた八重山調査について、田代の調査を下敷きに行っている内容が多分に含まれていることを把握できた。(実際、笹森は自著で、八重山調査への出発前に、田代に面会して教えを請うたことを明らかにしている)。今後、田代と笹森の八重山調査記録を峻別して、両者の調査内容の類似点と相違点を明らかにする必要がある。この研究は、後の柳田國男の南島研究へもつながるものであり(研究代表者によって、成城大学所蔵「柳田文庫」にも田代の調査資料の写しが数点収録されていることが明らかに

なっている)、将来的に、田代の「旧慣」調査の系譜に関する研究として確立することができると考えている。

本研究では、沖縄での田代の「旧慣」調査に基づく統治構想が、日本による統治政策の形成に結びついている可能性を部分的に明らかにした。これらをさらに進展させて、田代の「旧慣」調査と建議が、当時の政府高官らを通じて、実際の(植民地を含む)統治政策へと結びついた事例を積み重ねていく必要がある。こうした研究の蓄積により、日本の(「内国(国内)」、外地を含む)植民地統治政策の原型が、「旧慣」調査をはじめ、多様な要素から成り立つものであることを明らかにすることに発展することを確信している。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### [雑誌論文](計5件)

大浜郁子、田代安定にみる沖縄と台湾における「旧慣」調査と統治政策の形成、『第九屆臺灣總督府檔案學術研討會論文集』、國史館臺灣文獻館(台湾)、査読有、2017年5月、305-329頁

大浜郁子、近代日本による沖縄と台湾における「植民地的近代教育」の導入「旧教育」の変容と学校騒擾、『「近代東亞的教育與社会」國際學術研討會論文集』、國立臺灣師範大學臺灣史研究所(台湾)、査読有、2015年11月、別冊1-15頁

大浜郁子、田代安定の台東調査にみる夕口口、『第八屆台日原住民研究論壇・太魯閣族抗日戦争史學術研討會論文集』、國立政治大學原住民族研究中心(台湾)、査読有、2015年10月、CD-ROM版

大浜郁子、(評論)日本近現代一三教育・移民・植民地、「2014年の歴史学界回顧と展望」、『史學會編『史學雜誌』124編5号、2015年5月、181-186頁

大浜郁子、台湾・東南地域の「原住民」統治と沖縄・八重山統治の比較研究 田代安定の「旧慣」調査に基づく政策形成を軸に、『第七屆台日原住民研究論壇論文集』、國立政治大學原住民族研究中心(台湾)、査読有、2014年10月、223-233頁

### [学会発表](計5件)

大浜郁子、田代安定にみる沖縄と台湾における「旧慣」調査と統治政策の形成、第九屆臺灣總督府檔案學術研討會、2016年8月25日、國史館臺灣文獻館、南投縣中興新村(台湾)

大浜郁子、近代日本による沖縄と台湾における「植民地的近代教育」の導入「旧教育」の変容と学校騒擾、「近代東亞的教育與社会」國際學術研討會、2015年11月14日、國立臺灣師範大學、台北(台湾)

大浜郁子、田代安定の台東調査にみる夕  
口コ、第八屆台日原住民研究論壇・太魯  
閣族抗日戦争史學術研討會、2015 年 10  
月 31 日、花蓮縣秀林鄉（台湾）

大浜郁子、田代安定による沖縄の「旧慣」  
調査と臨時台湾旧慣調査会、日本台湾学  
会第 17 回學術大会、2015 年 5 月 23 日、  
東北大学（宮城県・仙台市）

大浜郁子、台湾・東南地域の「原住民」  
統治と沖縄・八重山統治の比較研究 田  
代安定の「旧慣」調査に基づく政策形成  
を軸に [ 台風による遅延のため、代読報  
告 ] 第七屆台日原住民族研究論壇、2014  
年 10 月 12 日、國立政治大學原住民族研  
究中心、台北（台湾）

〔図書〕(計 1 件)

梅林宏道、永井均、竹本真希子、大浜郁  
子、他 227 名、「台湾総督」(395 頁)・「霧  
社事件」(618 頁) [ 項目執筆 ] 広島市  
立大学広島平和研究所編『平和と安全保  
障を考える事典』、法律文化社、2016 年 3  
月、総 701 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大浜 郁子 (OHAMA Ikuko)  
琉球大学・法文学部・准教授  
研究者番号：60459964

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし